

# 宮城県

定数：4名

立候補者数：3名

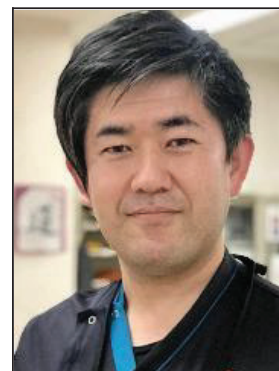


氏名 鈴木 博人

都道府県士会 宮城県

年齢 36

勤務先名称 東北文化学園大学医療福祉学部



氏名 阿部 功

都道府県士会 宮城県

年齢 42

勤務先名称 総合南東北病院

### 協会・士会役員歴／立候補の趣旨

平成26年～令和2年度：（一社）宮城県理学療法士会 教育局学術誌部・部員  
 令和元年～5年度：（一社）宮城県理学療法士会 学術局学術大会部・部長  
 令和元年～3年度：第25回日本基礎理学療法学会学術大会・準備委員長  
 令和2年～4年度：（一社）宮城県理学療法士会 E-nudge委員会・委員長  
 令和2年度～：（一社）宮城県理学療法士会・理事（学術局長）  
 令和3年度～：（一社）日本基礎理学療法学会若手研究ネットワーク推進部・部員  
 令和4年～5年度：第7回若手研究者ネットワークシンポジウム・代表  
 令和4年度～：日本産業理学療法研究会・評議員  
 令和4年度～：（公社）日本理学療法士協会U30・40ネットワーク検討部会・部員  
 令和5年度～：（一社）日本基礎理学療法学会・評議員

理学療法士有資格者は令和4年度に20万人を超え、本会会員全体の約75%を20～30代が占めるようになり、会員構成が著しく変化した20年間であったと言えます。さらに、働き方や働く場所、価値観なども多様化し、新たな戦略・発想が必要な時代になっています。

本会は会員数の減少という大きな課題に直面しています。その対策の一つとして「年会費の引き下げ」が議論が上がります。昨今の物価高騰や医療職の賃上げの鈍さなど、年会費を「安い」と感じるには難しい社会情勢がありますが、会員は決して出し渋っているわけではありません。特に若い世代は費用の必要性や価値を感じるものには投資する傾向があり、その価値基準が多様で変化が早いのだと私は考えます。よって、この時代においては多彩なコンテンツ設定と速度感のある更新、実験的で挑戦的な運営姿勢が緊要です。加えて、本会全体の活性化にはベテラン会員による柔軟な導きと意見も欠かせません。

上述の組織運営を実現するためには、会員の感覚・想い・意見を協会へ率直に伝達し、より誠実な組織であることが重要だと考えます。私は代議員となり、これまでの県士会・学術活動等で培った経験を活かしてその役割を果たしていきたいと考えております。

### 協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【立候補の趣旨】  
 宮城県理学療法士会において社会局、ブロック局担当の副会長を拝命しております。目の前の対象者を治療するだけでなく、様々な形で地域に理学療法の力を届けることが求められています。  
 代議員とし協会の意思決定に関わることで、協会レベルでできること、県士会レベルでできること、地域ごとにできることを会員の皆さんと共に考え、より多くの人に理学療法の力を届けます。

【協会役員歴】  
 2020年～ 日本理学療法士協会 代議員

【士会役員歴】  
 2012年～ 宮城県理学療法士会 理事  
 2021年～ 宮城県理学療法士会 副会長



氏名 藤野 隆喜

都道府県士会 宮城県

年齢 54

勤務先名称 東北労災病院

#### 協会・士会役員歴／立候補の趣旨

協会及び県士会活動

- ・日本理学療法士協会 代議員
- ・宮城県理学療法士会 副会長

理学療法士として病院勤務を始め、臨床の現場や県士会活動、他職種との関わりの中で自分たちの職域や専門性を常に意識してきました。社会に求められる理学療法士の役割は時代とともに変化していきます。人口動態の変化や科学・情報技術の発展は社会全体のスタンダードの変革を求めます。社会の発展による従属化は当然私たち理学療法士の在り方にも影響を及ぼし、選択の方向性と多様性を問い掛けてきています。

協会は①全世代を対象とした各ライフステージへの対応②疾病・傷害予防や健康増進、産業理学療法による健康寿命の延伸③多職種連携による地域共生社会への貢献を掲げています。その実現のためにも、私たち理学療法士の質の担保、ビジョンを共有または議論出来るコミュニティづくり、職域の維持・拡大、仕事として無理のないワークライフバランスの構築が必要です。協会の方向性は私たち理学療法士の在り方に大きく寄与します。その活動に代議員として会員の皆さんの意見を反映していけるよう尽力したいと思います。